

初の緊急時対応訓練を実施しました

第1回目は「机上シミュレーション」

食品安全委員会では、委員会内における緊急時対応能力の向上を図るための初めての試みとして、9月20日、第1回目の緊急時対応訓練を実施しました。訓練には食品安全委員会委員、事務局職員、緊急時対応専門調査会専門委員(オブザーバー)など約40名が参加。「全国でサルモネラ属菌による大規模な食中毒事件が発生する」というシナリオのもと、リスク管理機関と連携しながら、食品安全委員会としてどのような対応を行うべきかについてディスカッションを行う「机上シミュレーション」の形で進められました。

▶ <http://www.fsc.go.jp/senmon/kinkyu/k-dai19/index.html>

課題を踏まえた、さらなる訓練も

訓練終了後には、参加者やオブザーバーから多くの課題が指摘されました。

たとえば「委員や関係者間の情報の共有は早い段階から確保することが重要」「専門委員等への連絡体制について見直しが必要」などの組織体制の課題や、「国民の不安を解消するために、早い段階で、情報を受ける立場になって情報提供を行うべき」といった提案など、実にさまざまです。これらの課題も踏まえて、委員会では第2回の訓練を12月1日に実施したところであり、第3回の訓練を平成18年度中に行う予定です。



訓練を実施する食品安全委員会事務局職員

食品に関するリスクコミュニケーション

食品の安全性に関する地域の指導者育成講座

地域での食の安全に関するリスクコミュニケーションを進めるため、今年度から始めた事業です。行政職員、消費者団体、食品事業者など、地域の集まりで食の安全に関して話をす



る機会のある方を対象に、リスク分析の考え方や食品安全委員会の役割、コミュニケーションのとり方などの理解を深めていただくことを目的としています。第1回目は10月18日に東京都で開催し、これまでに福岡市、秋田県でも開催しました。内容は、食品安全委

員会委員による講演、順天堂大学医学部の堀口逸子氏によるゲーミングシミュレーションの演習などです。

今後も全国各地で開催することにしています。開催場所や参加者の募集については、食品安全委員会のホームページをご覧ください。

※ゲーミングシミュレーション:ゲームの参加者が、与えられた立場に立って参加者間で意見を交換しながら、問題の解決策を考える手法。立場によって多様な考え方があることを実感することにより、コミュニケーション能力を高めることができる。

▶ http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html

ダグマー・ハイム博士講演・意見交換会



10月13日、東京にて、スイス連邦獣医局TSE調整官を務めるダグマー・ハイム博士を招き「世界におけるBSEリスクとその評価について」とのテーマでの講演および意見交換会を開催しました。

ハイム博士の講演では、BSE対策について、①科学的知見に基づく安全性確保を基本に、経済性も考慮した効果的なBSE検査や有効なリスク管理措置の実施の必要性、②評価対象国の潜在的リスクを含むBSEまん延状況につい

での定性的なリスク評価の有効性などについて興味深い話を聴くことができました。

また、その後のパネルディスカッションや会場参加者との意見交換も、世界と日本の現状に即した具体的な議論が交わされる有意義なものとなりました。

詳しい内容は、ホームページの議事録をご参照ください。

【講演者プロフィール】

●ダグマー・ハイム博士
(Dr. Dagmar Heim)

スイス連邦獣医局TSE調整官、獣医学博士。OIE(国際獣疫事務局)のBSE特別委員会の委員やEFSA(欧州食品安全機関)のGBR(地理的BSEリスク)作業部会等、BSEに関する多くの国際的な研究について委員等を務める。BSEやTSE(※)に関する疫学調査論文、リスク評価およびリスク管理に関する著書多数。
※TSE: BSEを含む動物の伝達性海綿状脳症の総称。

▶ <http://www.fsc.go.jp/koukan/risk181013/risk-tokyo181013.html>